

## 公安委員会の開催状況

第1 日時 平成27年9月2日(水) 午後1時30分～午後4時25分

第2 出席者 織田委員長(司会)・山崎委員・島田委員

本部長・警務部長・生活安全部長・刑事部長・交通部長・警備部長・  
情報通信部長・首席監察官(代理)・総務参事官

第3 議事の概要

### 1 委員長伝達事項

委員長から、8月29日に宮城県において開催された第14回警察歯科医会全国大会のシンポジウムで発表したテーマ「東日本大震災の経験から考える南海トラフ大地震への対応」の概要について伝達が行われた。

### 2 委員長説示

県内では、8月26日に交通死亡事故が68日ぶりに発生した。昨年同時期と比較して減少しているものの、引き続き交通事故防止対策に取り組んでいただきたい。全国的には暴力団の分裂、少年の深夜はいかいが問題視され、首都圏ではJR施設等での連続放火事件が相次いで起こっている。このことを受けて、県警察としても、治安維持に尽力していただきたい。

### 3 委員からの申入れ

最近、定例公安委員会の議題が減少しているのではないかとというのが、委員3名の共通認識である。定例公安委員会に多くの議題を出してもらい、情報をいただきながら議論していくことで、公安委員会の役目を果たすことになると考えている。公安委員会が適切に県警察を管理していくためにも、審議事項や提出議題の件数や内容について検討をお願いする。

### 4 報告事項

#### (1) 平成27年度9月補正予算の内示状況について

警務部から、平成27年度9月補正予算の内示状況について報告があった。

- (2) 女性職員に対するアンケート調査実施結果を踏まえた今後の検討課題について  
警務部から、女性職員に対するアンケート調査実施結果を踏まえた今後の検討課題について報告があった。

委員が、「育児休業中の職員に対する支援としてどんな取組を行っているか。」と質問し、警務部から、「いくじ通信を配信したり、最近の県警察の動きや制度改正の情報を得られるような取組を本年から開始した。また、キャリアアップ研修等の開催については、育児休業中の職員にも周知するとともに、希望があれば、臨時の託児室を設置するなど参加しやすい環境作りに取り組んでいる。」旨の回答があった。

委員が、「施設の改修や新築をする際は、当初から女性の意見を反映させていく体制作りが必要だと思う。将来、女性職員が増えていくことを見据えた施設の配置や女性の視点を生かした施設上の来訪者への配慮も大事になってくるのではないか。」と質問し、警務部から、「今後は、設計段階から女性の意見を反映させていきたい。」旨の回答があった。

委員が、「被服については、全国的にほとんどが男性仕様になっていると聞くと、女性仕様の出動服等を導入するなどの計画はないか。」と質問し、警務部から、「今まさに全国的に検討中であるが、県警察独自に見直しができる部分については、女性警察官の意見を聞いて検討を重ねていきたい。」旨の回答があった。

委員が、「女性警察官の専務登用については、女性自身が育児等との両立が難しいと感じている。一気に解決できない課題ではあるが、今後は、県警察においても女性警察官のロールモデルが多く誕生し、女性警察官のキャリアアップが図られていくことを期待している。また、子育ては夫婦で協力して行うという意識改革を図り、子育てへの理解を更に深めていただきたい。」と発言した。

本部長から、「施設の改修など男女ともに働きやすい職場環境を作ることはもちろんであるが、男女を問わず、働き方や子育てに対する意識改革をしなければ解決できないという視点に立って、県警察にできることを検討していきたい。」旨の発言があった。

## 5 追加の報告事項

刑事部から、暴力団の分裂問題について報告があった。

## 第4 個別審議、個別報告、決裁事項等

### 1 公安委員会に対する苦情の受理及び調査について

公安委員会事務室から、公安委員会に対する苦情の受理及び調査について説明があり、審議の結果、受理し、調査することを決定した。